



文化でつながる。未来とつながる。

Tokyo Tokyo
FESTIVAL

パビリオン
トウキョウ
2021

2021年2月15日

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
パビリオン・トウキョウ2021実行委員会

Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13 「パビリオン・トウキョウ2021」

会期変更のお知らせ

追加クリエイター **草間彌生** が参加決定 パビリオン最新プラン発表 & 関連プロジェクトも進行中

企画名：パビリオン・トウキョウ 2021

開催時期：2021年7月1日(木)～9月5日(日)(会期が変更になりました)

会場：新国立競技場を中心に半径約3km圏内の8ヶ所を予定

参加予定クリエイター：藤森照信、妹島和世、藤本壮介、石上純也、平田晃久、藤原徹平、会田誠、草間彌生

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、パビリオン・トウキョウ2021実行委員会

企画：ワタリウム美術館

運営：パビリオン・トウキョウ 2021実行委員会



日本を代表する
アーティスト、
草間彌生が
クリエイターとして、
参加します。

作品の詳細については、
続報をお待ちください。

草間彌生
©YAYOI KUSAMA

パビリオン・トウキョウ2021とは

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京、パビリオン・トウキョウ2021実行委員会は、「Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13」の1つとして、「パビリオン・トウキョウ2021」を実施します。

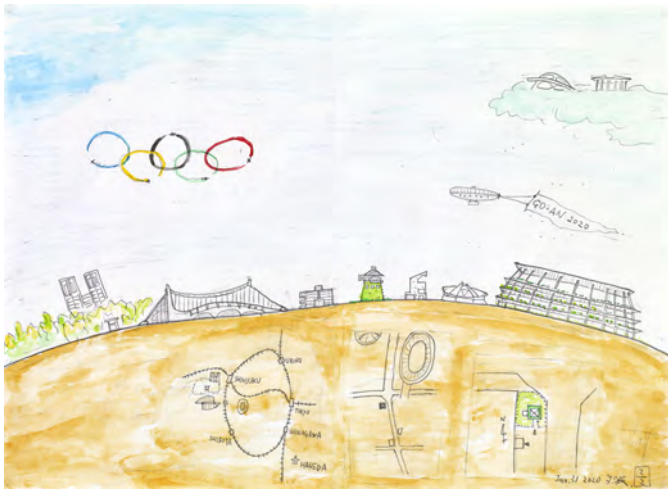
「パビリオン・トウキョウ2021」は、世界にまだ知られていない日本文化の魅力を世界に伝えるためのプロジェクトです。近年、世界各地で活躍し注目を集めている日本人の建築家6名とアーティスト2名に、それぞれ独自のパビリオンを設計してもらい、新国立競技場を中心とするエリアに設置し、未来の建築やアートとして紹介します。制作される8つのパビリオンには、それぞれの建築家、アーティストたちの東京の未来への願いが込められ、観客は地図を片手に宝さがしのようになり、あるいは散歩のかたわらパビリオンを巡ることができます。参加クリエイターは藤森照信、妹島和世、藤本壮介、石上純也、平田晃久、藤原徹平、会田誠の7名に加え、草間彌生の参加が決定しました。

「パビリオン・トウキョウ2021」は2021年7月1日(木)から9月5日(日)の間に開催され、会期中は都内各所でパビリオンの見学が可能となります。今後、制作過程などを公開しながら、本企画を通して東京の都市としての魅力を広く発信していく予定です。



● パビリオン最新プラン

茶室「五庵」(仮) 設計: 藤森照信 (本プロジェクト案) 会場: ビクタースタジオ前 (東京都渋谷区神宮前2-21-1)



制作は順調に進んでおり、2月には茶室外壁の焼杉を制作する作業が行われました。杉材を焼いて炭化させ、耐候性・耐久性のある黒い板材ができあがります。2021年7月、新国立競技場の目の前に現れる不思議なお茶室を、どうぞお楽しみに。

水のパビリオン (仮)

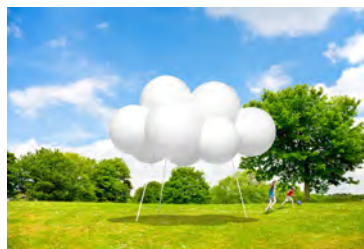
設計: 妹島和世 (本プロジェクト案)
会場: 後日発表



水面に空を映しながら、庭の中をさらさら流れる曲水のようなパビリオンです。

Cloud Pavilion (仮)

設計: 藤本壮介 (本プロジェクト案)
会場: 後日発表



東京の各地に現れる、ふわふわと浮かぶ雲のパビリオンです。

Global Bowl (仮)

設計: 平田晃久 (本プロジェクト案)
会場: 後日発表



大きなお椀が、街を歩き交う様々な人々を包み込みます。

焼杉 (仮)

設計: 石上純也 (本プロジェクト案)
会場: 後日発表



焼杉を用いて、新しくも、古くからそこにあるような、不思議な風景を作り出します。

ストリート・ガーデン・パビリオン (仮)

設計: 藤原徹平 (本プロジェクト案)
会場: 後日発表



人と植物が有機的に織りなす、路地の庭のようなパビリオンです。

東京城 (仮)

作: 会田誠 (本プロジェクト案)
会場: 後日発表



撮影: 宮島径 (c) AIDA Makoto
Courtesy of Mizuma Art Gallery
段ボールとブルーシートでできた2つのお城が登場します。

● パビリオンクリエイター

藤森照信



1946年生。東京大学大学院博士課程修了。現在、江戸東京博物館館長、東京大学名誉教授、工学院大学特任教授。近代建築史・都市史研究を経て1991年、45歳のときに〈神長官守矢史料館〉で建築家としてデビュー。土地固有の自然素材を多用し、自然と人工物が一体となった姿の建物を多く手掛けている。建築の工事には、素人で構成される「縄文建築団」が参加することも。代表作に〈タンポポハウス〉、〈ニラハウス〉、〈高過庵〉など。近作に〈多治見市モザイクタイルミュージアム〉や「ラ コリーナ近江八幡」の〈草屋根〉、〈銅屋根〉などがある。

妹島和世



©Aiko Suzuki

1956年生。日本女子大学大学院修了。1987年妹島和世建築設計事務所設立。1995年西沢立衛と共にSANAAを設立。アクリルや金属板などの素材を用い、空間と人がゆるやかに接続し合う建築設計で知られる。代表作に〈金沢21世紀美術館〉、ニューヨークの〈ニュー・ミュージアム〉、〈ルーヴル・ランス〉、最新作〈大阪芸術大学アートサイエンス学科棟〉(妹島事務所として)など。2010年、第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展にて、日本人、そして女性として初めて総合ディレクターを務める。プリツカー賞、ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞、日本建築学会賞、紫綬褒章(個人として)、他受賞多数。

※上記の建築作品、受賞は特記のない限りSANAA 名義。

藤本壮介



1971年生。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年に藤本壮介建築設計事務所を設立。主な作品に〈House N〉、〈武蔵野美術大学美術館・図書館〉、〈House NA〉、ロンドンの〈サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン2013〉、最新作〈白い木〉など。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞、2015年パリ・サクレ・エコール・ポリテクニク・ラーニングセンター国際設計競技最優秀賞につき、2016年Reinventer.paris国際設計競技ポルトマイヨ・パーシング地区最優秀賞を受賞。

平田晃久



©Luca Gabino

1971年生。京都大学大学院修了。伊東豊雄建築設計事務所を経て200年に平田晃久建築設計事務所設立。現在京都大学教授。主な作品に〈Kotoriku〉、〈太田市美術館・図書館〉など。第19回JIA新人賞、Elita Design Award、第13回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞(日本館)、日本建築設計学会賞、村野藤吾賞など受賞多数。2016年にニューヨーク近代美術館の"Japanese Constellation" 展に参加。

石上純也



1974年生。東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了。妹島和世建築設計事務所を経て、2004年石上純也建築設計事務所を設立。東京理科大学非常勤講師、東北大学大学院特任准教授、2014年よりハーバード大学大学院客員教授を歴任。主な作品に〈神奈川工科大学KAIT工房〉、「アート・ピオトープ那須」の〈水庭〉、〈サーペンタイン・パビリオン2019〉など。日本建築学会賞、第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞など受賞多数。2018年、パリのカルティエ現代美術財団で大規模個展「石上純也 自由な建築」展を開催。

藤原徹平



1975年生。横浜国立大学大学院修士課程修了。2001年より隈研吾建築都市設計事務所にて、〈ティファニー銀座〉、〈北京・三里屯SOHO〉、〈浅草文化観光センター〉、〈マルセイユ現代美術センター〉など世界20都市以上のプロジェクトを担当。2009年よりフジワラテッペイアーキテクトラボ代表。2010年よりNPO法人ドリフターズインターナショナル理事。2012年より横浜国立大学大学院Y-GSA准教授。アートや演劇、都市など他分野に越境した活動を行っている。主な作品に〈等々力の二十円環〉、〈代々木テラス〉、〈那須塩原市まちなか交流センター「くるる」〉など。

会田誠



Courtesy of Mizuma Art Gallery

1965年生。東京藝術大学大学院修了。美少女、戦争、サラリーマンなど、社会や歴史、現代と近代以前、西洋と東洋の境界を自由に往来し、奇想天外な対比や痛烈な批評性を提示する作風で、幅広い世代から圧倒的な支持を得ている。平面作品に限らず、彫刻、パフォーマンス、映像、小説や漫画の執筆など活動は多岐にわたる。主な展覧会に「バイバイキティ!!! - 天国と地獄の狭間で- 日本現代アートの今」、(ニューヨーク、2011年)、「天才でごめんなさい」(森美術館、2012年)、「GROUND NO PLAN」(青山クリスタルビル、2018年)など。

草間彌生



©YAYOI KUSAMA
協力:オオタフインターアーツ

1929年生。10歳の頃より水玉や網模様をモチーフに絵を描き始め、28歳で単身渡米。平面作品から、立体作品やインスタレーションへと活動範囲を広げ、ハプニングと称される過激なパフォーマンスも実行した。代表作に「無限の網」「水玉強迫」「南瓜」「わが永遠の魂」などがある。美術活動の傍ら、小説、詩集も多数発表している。現在も国内外で精力的に活動を続ける、最も重要な日本人アーティストの一人である。2016年文化勲章を受章。2017年には、国立新美術館で大回顧展を開催。同年、「草間彌生美術館」を東京・新宿にオープン。

● 関連プロジェクト

【クリエイター・インタビュー進行中】

パビリオン・トウキョウ2021参加クリエイターが、自身のパビリオンと東京への思いについて語るインタビューが進行中です。第一弾・藤森照信、第二弾・平田晃久のインタビューが、TOTO出版HPにて公開されています。

(https://jp.toto.com/publishing/pav_tokyo2020/index.htm)



藤森照信

平田晃久

【アルバイト&ボランティアスタッフ募集】

お客さんを迎え、作品の魅力を伝え運営の中核を担うアルバイトスタッフ「パビリオン・リーダー」と「パビリオン・トレーナー」、ボランティアスタッフ「パビリオン・ガイド」を募集します。

パビリオン・トウキョウ2021は、東京に暮らすみなさんと一緒に作り上げるプロジェクトです。それぞれのパビリオンには、建築家・アーティストたちの、東京の未来への願いが込められています。2021年夏、まだ知られていない日本文化の魅力を伝え、東京の未来を一緒に考えてみませんか？

募集に関するお問い合わせは、staff@paviliontokyo.jp にて受け付けております。

<お問い合わせ先>

パビリオン・トウキョウ 2021実行委員会事務局 ワタリウム美術館内 (担当:杉山)

TEL: 03-3402-3001/FAX: 03-3405-7714 E-mail: info@paviliontokyo.jp

公式WEBサイト:<https://paviliontokyo.jp>

※内容は変更になる可能性があります。

※本事業は会期変更に伴い、パビリオン・トウキョウ2020から名称変更いたしました。

Tokyo Tokyo FESTIVALとは

オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組です。

Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVALの中核を彩る事業として、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。国内外から応募のあった2,436件から選定した13の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13」と総称し、展開しています。